

父の栄光のために

シリーズ～弟子道～

2011/6/19

父の日

イエス様と父(なる神)

- ▶ イエス様は常に「父」を意識しておられた
 - ヨハネ福音書には「父」105節・「父」と「わたし」88節
「父」と「子」14節
- ▶ 父から「遣わされた者」だと位置づけていた
 - 「生きておられる父がわたしをお遣わしになり、またわたしが父によって生きるように」＜6:57＞
- ▶ 自分と父とは一体であることを強調された
 - 「わたしが父の内におり、父がわたしの内におられると、わたしが言うのを信じなさい。」＜4:11＞

すべては父の指示のもとに

▶ 父が命じられたままに語る

- 「わたしは自分勝手に語ったのではなく、わたしをお遣わしになった父が、わたしの言うべきこと、語るべきことをお命じになったからである。」＜12:49＞

▶ 父がなされたことを行う

- 「はっきり言っておく。子は、父のなさることを見なければ、自分からは何事もできない。父がなさることはなんでも、子もそのとおりにする。父は子を愛して、御自分のなさることをすべて子に示されるからである。」＜5:19-20＞

なぜ父・子を強調されたのか？

- ▶ イエス様は人となられた神であったのだから、父・子の関係を強調する必要はないのでは？
 - 「初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。万物は言によって成った。」＜1:1,3＞
- ▶ 自ら考えたことを語り、自らの業を行ってもよいのではないか→自分の意志を放棄している
 - 「わたしは自分の意志ではなく、わたしをお遣わしになった方の御心を行おうとするからである。」
＜5:30＞

「父と子」の関係は「子と弟子」の型

- ▶ 子が父の掟を守るように、弟子は子の掟を守る
 - 「わたしが父の掟を守り、その愛にとどまっているように、あなたがたも、わたしの掟を守るなら、わたしの愛にとどまっていることになる。」<15:10>
- ▶ 子が父に愛されたように、子は弟子を愛する
 - 「父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛してきた。わたしの愛にとどまりなさい。」<9>
- ▶ 父と子の絆の中に弟子も加えられる
 - 「父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください」<17:21>

父の役割は本当の父を示すこと

- ▶ 父親の役割を果たすことが困難な時代
 - 社会全体が方向性を失っている
 - 父親の「ステレオタイプ」がない
- ▶ 父親も本当の父親につながる
 - イエス様のように、自分の考えや、判断力に頼らず、父なる神の考えを求め、実行する
- ▶ 父親の「父なる神との関係」を子どもたちに示す
 - 子どもたちも自らが父なる神につながるならば、何の心配もない

父・子の関係が教える弟子道

- ▶ 自分勝手に語ったり、行動したりしない
 - 祈りと聖書の教え、聖霊の導きを土台とする
 - 人間の知識は限られており、間違いを起こしやすい
- ▶ 自分の栄光を求めない
 - 成功すると高ぶり、失敗すると落ち込む
 - 「わたしが自分自身のために栄光を求めようとしているのであれば、わたしの栄光はむなしい。」8:54
- ▶ 孤立しない
 - 「互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる。」<13:35>

イエス様の弟子として生きることが 神の栄光となる

「あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたの内にいつもあるならば、望むものを何でも願いなさい。そうすればかなえられる。

あなたがたが豊かに実を結び、わたしの弟子となるなら、それによって、わたしの父は栄光をお受けになる。」 <15:7-8>